

今号の ■ ネット健康問題 認定講習会の報告

トピックス 「ネット健康問題の啓発者養成 新たな教材でより専門的な啓発者へ」

THInet 第4回公式インストラクター認定講習会を2022年1月9日と10日、2日間にわたり開催しました。2021年度6月の乳幼児一日研修会、10月11月のコース制半日研修会を受講された方、また、2021年度以前に認定講習会を受けた方々も含めて、参加者は17名でした(4名は別日に実施)。

2022年度の大きな変革はさいたま市の「さいたま共済会館」を対面会場とし、会場の様子をオンライン配信する「ハイブリット型」の講習会にしました。伊藤賢一科研費の協力を得て機材を準備し、スタッフの奮闘もあり、大きなトラブルもなく講習会を終えました。このシステムを取り入れることで、全国の様々な会場をオンラインで結び、講習会を行えることができる、「新たな講習会の形態」の示唆を得ることができました。

教材に関しても新たな事実を取り入れた様々な教材が作られ、学びがあった2日間でした。本号では、講習会の教材のポイントや参加者の感想を紹介します。(本間)

「脳の発達阻害」分野

～新教材・バイリテラシー脳～

本分野は4章で構成しました。ICT教育が強引に推進されていることを意識し、新領域・教材とし「紙に書くこと」と「デジタルを利用すること」で脳活動にどのような違いがあるのかに挑戦しました。

カリフォルニア大学の著名な認知神経科学者、メアリアン・ウルフの説を踏まえ、バイリテラシー脳(二つの読み書きの能力)の育成が必要で、そのためには幼少・子ども期は、紙媒体で「読む脳」を育てることが大切との結論です。今後ますます深めるべき時期であることを確認しました。(伊藤理恵、大谷)

「視聴覚への影響」分野 ～VR問題に挑戦～

VRの使用について、年齢制限が設けられているのはなぜかを、眼の発達と脳とのかわりを含めて新しく追加しました。

VRを小さい子が長時間使用すると、後天内斜視になったという報告があります。また、VRは通常の奥行き知覚の仕組みとも異なる見え方になり、視機能発達途中の乳幼児は使用しないことが望ましいです。特に、2眼タイプのもを使用する際は、年齢制限の表示を確認し、使用制限以下の年齢の子どもたちは使用しないようにして眼の機能を守りましょう。(ウッド 一美)

「ネット環境、発達とネットリスク」分野

「ネット環境」に関しては、伊藤科研 PT+THInet 共同調査による乳幼児(0か月からのメディア接触)と高校生(8時間以上が72%)のスマホやネットの利用実態とそれを基にした今後の啓発のポイントを紹介しました。「発達とネットリスク」に関しては、人間が進化の過程で確立してきた『集団子育て』や子どもの成長に大切な『関ること、身体を動かすこと、眠ること』が便利・快適・効率を優先する今日の生活により脅かされ、さらにメディア接触により拍車がかかっていることを確認しました。

(矢野さと子)

参加者の感想1 (アンケートから抜粋)

○山極寿一氏の著書も取り入れ、“発達”というものを捉える視点が広がったように思えます。未確定ではあっても、今の時代を、人類史的なスパンで考えるような学びも必要かと思いました。

○健康でいるため最低限の運動機能を維持するためにも、体を動かすことは大切だとわかった。ましてや発達途中にある子どもであればなおさらで、やはり子どもにとって遊びは大切だと改めて認識した。

参加者の感想2 (アンケートから抜粋)

○アナログ学習とデジタル学習の「脳活動」の違いを知りたかったので、とても良い勉強になりました。

○視覚野については、比較的低年齢の子を持つ保護者にぜひお伝えしたいことだと改めて思います。わが子も視力が落ちており、何とかせねばと思うのですが、言い方によっては「うるさい」と言われるだけなので、言い方に工夫が必要ですね。